

なぜ、弁護士が
ドキュメンタリー映画を
作らねばならなかったのか？

弁護士 河合弘之 初監督作品

日本と原発

私たちは原発で幸せですか？

監督／河合弘之（弁護士）

構成・監修／海渡雄一（弁護士）

音楽／新垣 隆
（テーマ曲書き下ろし）

映画 「日本と原発」

製作・監督:河合弘之 構成・監修:海渡雄一 制作協力:木村結 音楽:新垣隆
脚本・編集・監督補:拜身風太郎 制作:Kプロジェクト

■お話をうかがった方々:

青木秀樹 アナトーリー・チュマク 飯田哲也 エフゲーニャ・ステパノワ
大島堅一 川口登 小出裕章 コンスタンティン・ロゴノフスキー
古賀茂明 鈴木大介 高野仁久 田中三彦 馬場有(敬称略)

※この映画は、原発についての報道・広報に対する批判的検討をも目的としています。

私たちは原発で幸せですか?

写真:浪江町/2014.09月撮影 ©Kプロジェクト

これ1本で原発を取り巻くすべての問題を提起します。 映画鑑賞後、ご自身でご判断ください。

有名企業を取り巻く多くの裁判で勝ち続け
辣腕弁護士と呼ばれた河合弘之。

しかし、河合の人生後半戦の一大事業と位置付けた原発訴訟は、
負け続けだった。

何年続けても、どんなに方法論を工夫しても、勝てなかった。
逆襲弁護士と呼ばれるタフな河合だが、
負け続ける原発訴訟にその闘志は弱まっていた。

そして、2011年3月11日。
東京電力福島第一原子力発電所で
原子力発電史上最悪の事故が起きた。
河合は決心した。「絶対にあきらめない」。

これは、弁護士河合弘之と盟友弁護士海渡雄一、訴訟を共に闘
う木村結の3人が、多くの関係者、有識者にインタビュー取材
を行い、現地での情報収集や報道資料等を基に、事故に巻き込
まれた人々の苦しみ、原発事故を引き起こした背景、改善され
ない規制基準、エネルギー政策のウソと真実を追求したドキュ
メンタリーである。

「裁判はたったひとりでも正義をかけて闘える民主主義社会の
安全弁みたいなものだ。だから、僕はひとりでも闘う。でも、
それだけじゃ、みんなに伝わらない。ひとりでも多くの人に真
実を伝えるには、やはり、映画しかない」(河合弘之)。



「日本と原発」上映会 2015年5月24日(日曜日)

せんだいメディアテーク7階スタジオシアター (仙台市青葉区春日町2-1)

①10時開演(9時40分開場) ②13時40分開演(13時20分開場) 一定員各180名

料金: 1,000円 ※チケット前売りなし、予約不要です

(来場者が定員に達した場合は消防法により入場を制限させて頂く場合がありますので予めご了承ください)

問合せ先: 電話番号 090-3145-1099 メールアドレス 5-24eigakai@excite.co.jp

主催: 5.24「日本と原発」をみんなで観る仙台の会 FB: 5.24日本と原発で検索

協賛: 脱原発をめざす女たちの会

映画: 日本と原発で検索

